

沼田で
見つけた

ティーネのお気に入り



吹割の滝

初めて見たとき、滝の幅が広いことにビックリ。滝っていうと、縦に長く水が落ちるものだと思っていたので



天狗プラザの天狗

街中を散歩していたら出会いました。これも大きさに驚き。迦葉山の天狗や沼田まつりの天狗みこしは必見です



日本食

お弁当を持参するので、カボチャやひじきの煮物などを作り置きします。ドイツに帰ったら日本食が恋しくなりそうです



①市民向けの料理教室を毎月開催②学校を訪問してドイツ文化を紹介③ドイツフェンシング協会会長を迎え中学生と交流④イベントではクイズも出題

のレギュラー番組を持ち、広報ぬまたでもドイツを紹介する「国際交流員ティーネのいいね！ドイツ」を連載し、市民の皆さんからは「ドイツのことがよく分かる」「毎回楽しみ」と好評でした。

日本が大好き

ティーネさんが沼田に来ることになったのは、日本が好きだったから。高校生のときには日本のドラマを見たり、歌を聴いたりしながら、日本語や漢字を覚えました。大学では日本学を専攻。留学中には国内のドイツ企業ヘインタンシップも経験しています。

国の外国青年招致事業「JETプログラム」を活用し、ティーネさんを市の国際交流員に任用。ティーネさんの沼田の第一印象は「自然が豊かで満喫したい」だったそうです。県内外で行われる研修を受け、市の

業務に意欲的に取り組んできました。

沼田を満喫

プライベートも充実し、お気に入りの沼田公園では、散歩やジョギングを楽しみました。スーパーや通っているスポーツジムでは「こんにちわ」「広報読んでいますよ」と声を掛けられたり、町内の会合にも招待されたりと、皆からよくしてもらったといいます。

ドイツに住む家族や友人には、沼田の風景や自身の仕事などを写真で送ると喜ばれるので、積極的にSNSでも発信していたとのこと。家族が沼田へ遊びに来た時には、吹割の滝や迦葉山を案内したり、大好きな日本食を味わってもらいました。

コロナ禍での挑戦

今年開催される予定だったオリンピック・パラリンピックが、新型コ



クリスティーネ・バウアーさん

ドイツミュンヘン市出身、28歳。漢字に興味を持ったことがきっかけで、大学では日本学を専攻。日本でインターンシップなどを経験し、2018年8月から市の国際交流員として、ドイツの文化を紹介する事業などを担当



「ティーネ」の愛称で親しまれ、市の国際交流員として活躍してきたクリスティーネ・バウアーさんが、9月末でドイツへ帰国の文化を紹介する取り組みや通訳、翻訳の業務など、沼田で過ごした2年間の振り返りをします。

ずっと日本語に関わりたい



ドイツに親しんで

料理教室を毎月開催し、和気あいあいとした雰囲気の中、参加者にはドイツの家庭料理を身近に感じてもらうことができました。学校訪問では、子どもたちの目線に立って、伝統文化を紹介したり、イベントではクイズを出題して、お菓子をプレゼントしたりと、ドイツに興味を持ってもらえるようさまざまな切り口で交流を図ってきました。ドイツを発祥とする「クリスマススマーケット」も本市で初めて開催。準備から携わり、本場のホットワインやクリスマス雑貨などの露店が並び、イベントの最後には市民参加による100人ゴスペルで感動のフィナーレを迎えました。

一方、ドイツ語・英語・日本語の3カ国語が堪能で、通訳や翻訳でも活躍。本市は東京2020オリンピック・パラリンピックにおいてドイツフェンシングチームの事前合宿地となっており、ドイツフェンシング協会のボーケル会長訪問の際には通訳を担当し、大会に向けた調整などに重要な役割を担ってきました。地震が多い日本で、いざというときに選手が落ち着いて行動できるように、沼田中学校の生徒たちがパンフレットを作成する際にも、英語への翻訳をサポートしました。

このほか、FM OZEでは週1回